

## I. 本園の教育目標

心豊かに いきいきと遊び、  
「生きる力」の基礎をはぐくむ

## II. めざす幼児像

- 豊かな心をもった子ども
- 健康で体力のある子ども
- 基本的生活習慣が身についている子ども

- 年齢や発達段階に応じた目標をもち、一人一人のよさや可能性を引き出していく。
- 幼児が積極的、主体的にかかわり豊かな生活体験ができるようにする。
- 園生活の中で豊かな心情や自分からかかわろうとする意欲、日々の生活に必要な態度を育てる。

## III. 本年度の重点課題

1. 身近な環境に興味・関心をもって自ら関わり、遊びを継続し発展させながら、心動かし遊べるように教師の援助や環境構成に努める。
2. 自分の考えや思いを伝えたり、友達の考えや思いに耳を傾けたりしながら互いを思い合い、認め合える関係を築けるように関わっていく。
3. 友達や異年齢児、小中学生、絵本ボランティアの方々、シニアクラブの方々など、様々な人と触れ合う中で人とのつながりを大切に、豊かな心を育てていく。
4. 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度を身に付けられるように丁寧に関わる。
5. 幼児の遊びが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にどうつながっていくかを意識し、見通しをもって学びに向かえるような環境を工夫し、小学校教育への円滑な接続を図る。
6. 様々な研修を通して、教師としての感性や専門性を磨き、保護者や地域とつながりながら保育の充実に努める。

## IV. 達成のための方策

1. 身近な環境に興味・関心をもって自ら関わり、遊びを継続し発展させながら、心動かし遊べるように教師の援助や環境構成に努める。
  - (1) 一人一人の幼児の内面を読み取り、幼児の心の動きに寄り添いながら、自己発揮できるように丁寧に関わっていく。
  - (2) 幼児の発達や興味関心に応じて思わずやってみたくなるような、心動かされるような環境を考え、設定していく。

- (3) 日々の保育を振り返り、一つ一つの遊びがどのような学びや育ちにつながっているのかを見直し、教師の援助や環境の再構成を考える。
  - (4) 植物の栽培や生き物の世話など様々な自然体験を通して命の大切さを感じられるようにする。
2. 自分の考えや思いを伝えたり、友達の考えや思いに耳を傾けたりしながら互いを思い合い、認め合える関係を築けるように関わっていく。
- (1) 一人一人が素直に自分の思いが伝えられるような雰囲気づくりに努める
  - (2) 一人一人が自分の力を十分に発揮し、伝え合い認め合い刺激し合いながら共に育つ仲間づくりに努める
  - (3) 幼児が互いの個性を認め合い、自己肯定感をもち、それぞれの良さを生き生きと表現できる仲間づくりをする。
  - (4) 園での様々な生活体験や自然体験で感じたことを豊かに表現しようとする意欲や態度を育てる。
3. 友達や異年齢児、小中学生、絵本ボランティアの方々、シニアクラブの方々など、様々な人と触れ合う中で人とのつながりを大切に、豊かな心を育てていく。
- (1) 一人一人のよさや可能性を見出し、幼児自身が「大切にされている」「自分は存在価値がある」など感じられるよう自己肯定感を育む。
  - (2) 一緒に生活する中で、相手の思いに気づき、思いやりの気持ちを育む。
  - (3) 遊びや生活の中でのルールの大切さに気づき、自分で善悪の判断ができるようになる。
  - (4) 生活の中で異年齢児（なかよし家族）との関わりを通して、互いに刺激を受け合ったり、共に学び合ったりできるような豊かな環境を整える。
  - (5) 友だちや異年齢児、シニアクラブや地域の人々、小中学生など様々な人とのつながりを深められるように交流する機会をもつ、
  - (6) 日本の伝統や文化を大切にすると共に、英語活動（英語で遊ぼう）で外国人講師のかかかわりを楽しんだり、英語に触れたりする場を大切にする。
4. 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度を身に付けられるように丁寧に関わる。
- (1) 生活や人と関わる中で、自分から進んで挨拶ができるようにする。
  - (2) 発達に応じた生活に必要な基本的な生活習慣や態度の確立に努める。
  - (3) 幼児期が睡眠・食事・遊びなど、生活習慣づくりの大切な時期であることを家庭に啓発していく。
  - (4) 挨拶、食事のマナー、箸の持ち方、姿勢などを生活に必要な習慣や態度を家庭と連携をとりながら身に付くようにしていく。
  - (5) いろいろな野菜を育て、収穫する喜びや友だちと一緒に調理したり食べたりする楽しさなどが感じられるようにする。
  - (6) 戸外で思い切り体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲を育てる。

5. 幼児の遊びが『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』にどうつながっていくかを意識し、見通しをもって学びに向かえるような環境を工夫し、小学校教育への円滑な接続を図る。

(1) こども園教育と小学校教育との育ちの一貫性を見極めた連携

- ①『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識できるように、毎日の保育を振り返り、考察・読み取りをし、援助や環境構成を考える。(PDCAサイクル)
- ②接続期のカリキュラムを作成・見直しをし、就学に向けて滑らかに接続していけるように考えていく
- ③こども園教育及び小学校教育の特質や教育内容について、理解を深める。
- ④日常生活の中で、教職員及び幼児児童が積極的に交流する機会を設ける。

5. 様々な研修を通して、教師としての感性や専門性を磨き、保護者や地域とつながりながら保育の充実に努める。

(1) 全教職員の共通理解による特別支援教育の推進

- ①支援を必要とする幼児の実態や発達段階、特性などを全職員が把握し課題にあった適切な指導や支援をしていく。
- ②関係機関との連携や研修の機会をもち、幼児理解と指導技術の向上に努める。

(2) 互いが高まり合う職場の人間関係と豊かな人間性あふれる魅力ある教師

- ①幼児教育に対する喜びや誇りをもち、生き生きとした生活をする。
- ②幼児との信頼関係を築く中で、教師の人権感覚や意識が幼児に及ぼす影響が大きいことを意識し、温かいまなざしや人権への配慮が行き届いた環境で包まれるよう努める。
- ③識見を広め、豊かな感性と社会性を磨く。
- ④互いの努力を認め合い、励まし合い、高まり合うことのできる温かい職場の人間関係をつくる。
- ⑤園内研修の充実に図り、一人一人の幼児の育ちを明確にして、更なる成長への糧としていく。